

は し が き

21 世紀も 15 年以上、米ソ冷戦終結から四半世紀以上がすぎて、大きな歴史の流れが見えてきています。多くの紛争を抱えながらも、世界中の社会が民主化の方向に向かっていきます。5 世紀前にその方向に踏み出したヨーロッパ出自の市民たちが、国民国家をつくって世界中を植民地化したのに対抗して、植民地化された世界中の民衆が自らを解放し、市民たちばかりでなく労働者、農民、少数民族、女性、およびあらゆる少数者を包括しつつ、人類社会の主権者となりつつあるのです。

日本は、よく意味も分からないまま欧米列強に伍して世界の支配者になろうとし、アジアの隣人たちに絶大な犠牲を強いたばかりでなく、自らもそれに次ぐ犠牲者を出しましたが、敗戦後に新しい憲法を掲げて復興から成長に取り組み、世界第三といわれる規模の経済を築いてきました。そしてそれをふまえて、アジアの隣人たちと共存し、世界中のポストコロニアルな民衆と連携しつつ、米欧の民衆とも連携して、中途半端な市民性を超えた、日本と世界の真の主権者になる道を模索し続けてきています。

現在の政権や事業形態はまだまだ不十分ですが、日本の民衆はしだいに目覚めて、主権者が民主的な政府をつくって運営し、民主的な事業で自らを支える民主社会に向かっていくでしょう。不完全な選挙制度を改革して主権者の意思をより正確に反映する政府——三権分立をふまえた広義の——をつくるとともに、主権者自身が民主的におこなう事業の規模を広げ、内容を充実させていくのです。そういう角度から、協同組合という事業形態ばかりでなく、労働組合なども見直されていくはずです。

こうした視野で見ると、戦後の混乱期にその基礎を築き、学生運動やその他の社会運動に巻き込まれながらも、学生を初めとする大学全構成員の協同組合としてその自己確認（アイデンティティ）を再設定して、日本経済のバブルとその破綻をくぐり抜けて発展してきた大学生協には、事業としても、もっと広い活動としても、大きな意義があります。

本書は、21 世紀になって国立大学が法人化し、公立大学や私立大学にもその影響が及んでいくなかで、全国大学生協同組合連合会の会長理事を務めてきた著者の、苦闘——というよりは快闘——の軌跡です。前著『大学改革と大学生協』までの 4 年間ではまだよく分かっていなかったことが分かってきて、大学生協を「若き主権者の事業」として明確に位置づけることができるようになりました。

日本という民主社会をできるだけ民主的な政府で運営しつつ、できるだけ民主的な事業で支えていくのが日本の主権者であるとすれば、大学生協は、大学に入ってまず民主的な事業に参加し、ついで民主的な政府を形成する主体となっていく若者たちの創造的な事業なのです。若者たちがこのことに目覚め、協同の精神を血肉化して社会に出ていけば、日本の社会は、かつての富裕市民たちの事業から出発し、法人化され、グローバル化して今日の世界をつくっている企業も含めてしだいに変革され、民主協同社会に向かっていくことになるでしょう。

大学生協のある大学の学生、院生、留学生、および教職員の皆さんは、ぜひ本書を読んで自分たちのもっている可能性を確認し、アイデンティティを強めて、大学生協という事業と活動に参加してください。また、まだ大学生協のない大学の学生、院生、教職員の皆さんは、本書を読んでぜひ大学生協連のホームページなどにアプローチし、大学生協をつくる活動に参加してください。大学生協には、戦前の先駆史をふまえて戦後 70 年の歴史が鍛え上げてきた、優秀な生協職員が控えています。

本書の基となった諸言説の創出にあたっては、いちいち名前を挙げきれない多くの学生諸君をはじめ、私の後を継いで大学生協連の会長理事を引き受けてくださった古田元夫前副会長、5年前から大学生協共済連の会長を務めていただいている濱田康行前々副会長、玉真之介現副会長兼教職員委員長を初めとする多くの教職員の方がた、和田寿昭前々専務、福島裕記前専務、大本隆司前々常務、毎田伸一現専務、三浦貴司現常務を初めとする多くの生協職員の方がたにさまざまな機会にさまざまな形でお世話になりました。大学生協連は会員の大学生協が肩車を組んで持ち上げてくれているような組織で、その会長は大学生協連に関係する学生、院生、留学生、教職員、および生協職員が肩車を組んで持ち上げてくれているような役職なので、本書は事実上これらの人びとの協同労作にほかなりません。

前会長理事としては、これらの人びとに心から感謝するとともに、ただひとつ、大学生協は事業であり組織であるとともに、それを担う人びとが自分たちのことをどうとらえていくか、つまり意識あるいはアイデンティティの活動なので、とくにその面からの指導に心血を注いできたことを記し、返礼の気持ちをわずかに表現する以外にないと思います。その気持ちを形にしたものこそが、本書なのです。

2015 年 1 月吉日 庄司 興吉

目 次

序 交流をつうじて自己確認（アイデンティティ）へ

1 大学と協同の世紀

危機の深化と変革の広がり 大学生協をめぐる動き 大学理事会の攻勢
情動的自立の必要 アジアの大学生協との交流 ドイツ学生支援協会との交流
ヨーロッパ社会的協同組合のインパクト 変革から協同の世紀へ

2 学生支援の重要性

21世紀最初の10年 国際ケインズ主義の動き 市民の事業としての協同組合
大学の困難と学生支援の重要性 「私たちには夢がある！」

3 大震災と原発事故の衝撃

東日本大震災と福島原発事故の衝撃 国際交流と大学生協の世界的意義 学
生の実態と学生支援の重要性 世界の民主化と大学生協の活動

4 復興・再建への決意

思うように進まぬ復興 クアラルンプルでのワークショップ マンチェスタ
ーでのICA臨時総会と協同組合の10年 神戸での国際協同組合アジア太平洋ICA-AP
総会 民主化の進む世界のなかの協同組合 個々の大学生協の活動の意義
大震災・原発事故からの復興と再建の決意を！ 仲間の協同者たちに呼びかける！

5 パラダイム転換：市民から主権者へ

引き続く交流 ソウル・ワークショップと日本大学生協の積極的意義 ICAケ
ープタウン総会での日本の大学生協 個々の大学生協の健闘 供給高の減少を
食い止める生協論議を！ パラダイム転換：主権者の政府と事業 心からの納
得に基づく行動を！

6 大学生協から民主協同社会へ

大学生協の意義を考え続けて 「灯台もと暗し」ではなかったか？ 各地の会
員生協訪問とアイデンティティの強化 被災地の復興・再建と大学教育改革への貢
献 ICA-AP大学キャンパス委員会の開催とDSWとの交流 「2050年の生協」論
議への貢献と各地大学生協の状態 世界の民主化と主権者の事業としての協同組合
「協同組合の10年」ブループリントとビジョンとアクションプランの合致

I 大学と協同の世紀

1 電子情報市場化時代の自立と協力：大学生協の生き残る道

自立とは？ 人間が生きるとは？ だから自己とは？ だから社会的自己とは？ 情報的に統括される自己 自立していなければ協力もできない組合員に依拠しないからそういうことになる 組合員も目覚めなくてはならない

2 外へのまなざしと内へのまなざし

危機と変革の時代に入った世界 日本の大学生協への関心 学生の生協と教員の生協 真似をすることの意味 日本は欧米なのか：あらためて脱米欧入亜の必要性 外へのまなざしは必ず内へのまなざしにはね返る

3 民の意味・民の事業

民は民間企業？ 民の歴史 生協は民の事業 大学の民は構成員
大学生協は大学市民の協同組合

4 協同の世紀と大学生協の新たな役割

電子情報市場化 国際ケインズ主義 市民（主権の強）化 労働復権の動き 協同の意義の高まり その背景：市民化の意味 シティズンの事業
大学生協のこれからの役割

5 歴史を創る！：『大学生協の歴史と未来』の刊行に寄せて

『大学生協の歴史と未来』の刊行 戦後の欲望自然主義 「闘う大学生協」
福武所感から現行「ビジョンとアクションプラン」へ 歴史および歴史認識の変化
見えなかったことが見えてくる 大学生協も市民（社会）化の一翼を担ってきた

II 学生支援の重要性

1 人間の危機に対処する協同

共済分離と大学生協の課題 依存症の拡大：自己喪失人間の増加 他人指向型論からアイデンティティ論をへて自己喪失人間の時代へ 協同の意義 依存症からの脱却を支える協同 大学生協の役割

2 日本のシティズン社会化と大学生協の役割

2つの論文 帝国から市民社会へ 帝国主義と社会帝国主義の対立 冷戦終結後の市民社会化 帝国主義と社会帝国主義の対立 冷戦終結後の市民社

会化 ブルジュワ社会からシティズン社会へ 民主党 0・H 政権の矛盾：日本シティズン社会の現状 学生共済の分離独立と大学生協の役割

3 大学生協は協同組合の媒介者になれるか？

大学生協連会長の内外の活動 共済連創立の意味 アジアへの大学生協拡大の新段階 ヨーロッパ型との継続的連携の確認 日本における協同組合の連携 グローバルな市民社会化の意味 市民の事業としての協同組合の意義 大学生協の自覚が必要 新しい生協学の構築に向けて

4 学生支援の日本的形態

多忙な活動をふまえて 世界の大学数と進学率 世界の主な大学の学生数 大学は何をしているのか？ 学生はなぜ支援されなければならないか？ 米欧の学生支援 日本の学生支援の現状 大学の使命と大学生協 学生に大学生協の意義を！

5 シティズン社会化と参加

簡単ではない社会理論の完成 シティズン社会化の趨勢：総会議案をめぐって参加の意味：総会議案をめぐって (2) 歴史を創る・再論

6 大学間国際協力と学生支援の重要性：ドイツとの対比で

日本の大学とドイツの大学 大学拡張と大学教育の普遍化 国際協力への関心と現在の課題 交流をつうじて米欧の学生支援から学ぶ 日本の学生支援を向上させていく必要性

7 ジャパン・シンдрームと大学生協の役割

日本の大学のドイツへの紹介を機会に ドラッグ・ラグが提起している問題 少子高齢化は歴史の狡知でもある 大企業以外の可能性 多様な非営利企業と大学生協

III 大震災・原発事故の衝撃

1 東日本大震災・福島原発事故と協同組合憲章づくりのなかで

原発事故はもとより地震津波もたんなる天災ではない 協同組合憲章草案第一次案への修正提案 世界の市民社会化のなかでの協同組合 1. 前文 2. 基本理念 協同組合についての理解を協同組合自身が深める 大学生協の歴史と役割

2 全国大学生協連会長理事として

社会学研究からのキイ 大学生協連会長理事のメッセージ 大災害を克服して
新社会を開いていく協同の流れに参加を！ 自然・社会災害の社会科学的位置づけ

3 協同組合憲章草案のさらなる前進に向けて

予期しがたい自然災害に直面して 協同組合憲章草案第二次案修正の方向
人びとの協同的反応を冷静に理論化すること 協同組合における経営と労働
「新しい公共」の扱い方について：自助・公助・共助のバランス

4 生態系と大きな視野からみた場合の大学と大学生協：教職員、院生学生、生協職員にわかってほしいこと

二つの重要な視点 COOP（生協）だからこそ COP10 に貢献しよう！ 人類史
展開の現段階と大学生協の大きな役割 教職員の皆さんへ 院生・学生諸君へ
生協職員諸兄に

5 世界の市民社会化と協同組合活動の意義

予想以上の速度で進む世界の市民社会化 普通市民の事業としての協同組合
2012 年は国際協同組合理年 教職員・生協職員から学生に

6 理念と実態との距離を埋める

ICA 総会での経験 コミュニティへの貢献と教育機関の生協 大学生協の意義

7 大学生協の実態をふまえて堅実な対応を！

他方に大学生協の実態 どんな困難があるのか？ 募金活動と学生総合共済
給付の概要 被災者支援ボランティア活動の概要と今後への教訓

IV 復興・再建への決意

1 日本社会の再建と大学生協の再建

東日本大震災・原発事故後の日本社会 民主化とビジョンの明示 日本社会
再建のなかの大学生協 意義論議から事業再建へ 再建の深い意味

2 意欲の意とは？

活動のなかからの発言 何が欠けているのか？ 欠乏からの解放？ 意欲の意とは？

3 協同する意欲

いろいろな場で話を聞きつつ 日本民主主義の現状 大学生協は？ 協同する意欲 協同の意味・再考

4 一貫して考えていくべきこと

国際交流のあり方 PC カンファレンス：E から O をへて C へ 教職員セミナー 京都コンソーシアムの協同組合論 運営委員長会議・理事長専務理事セミナー 市民という言葉の意味

5 大学生協にできること

とくに知っていただきたいこと ICA 臨時総会の衝撃 協同組合をめぐる討論会 中国の協同組合をめぐる報告 日本の協同組合の問題性 世界と現場

6 続・大学生協にできること

さまざまな集会と聞き取り T 大生協での経験 ワーカーズコープの意味 ICA-AP 総会の衝撃 大学生協はどうすべきか？ 国際交流をめぐる対談の成果 大学生協の日常の問題と復興・再建への決意

V パラダイム転換：市民から主権者へ

1 日本の協同組合員（協同者）へのアピール

「協同の声を上げましょう」 「協同組合の 10 年」の 3 年目にあたって 日本の協同組合員の基本的課題 協同組合の発展のために民主社会の基本枠組維持を 大学生協の内外で広く討論を！

2 パラダイム転換のために：自立した市民でいいのか？

日生協の 2020 年ビジョンと大学生協のビジョンとアクションプラン 日生協のアクションプランと大学生協のミッションとの対応 パラダイムとは？ 市民パラダイムの限界 支配された側からの反発：農漁民・労働者・諸民族 では、民主社会の担い手を何という？ 主民か自立した市民か

3 大学生協の意義と役割

基本的な考え方 主権者へのブレークスルー ICA のブループリント
農協と生協のリーダーシップ 大学生協のビジョンと ICA ブループリントとの対応
大学生協の大きな役割 大学生協の意義を役員と学生が語る！

4 大学生協のアイデンティティ：「協同組合の 10 年」に大学生協を強化し、日本の協同組合運動の前進に貢献するために

「あいさつ」の意味 アイデンティティからパラダイム転換へ 大学生協の
意味（アイデンティティ） 主権者の事業 国際交流の意味 他協同組合
との関係 基本は日常活動

5 ICA のブループリントと大学生協のビジョンとアクションプラン

「あいさつ」を「挨拶と問題提起」に ドイツ学生支援協会 DSW との交流の件
国際協同組合同盟 ICA 総会の件 他協同組合との交流 ブループリントとビジ
ョンとアクションプランとの対応について 協同とアイデンティティとの対応

6 個々の大学生協の盛況と全体としての傾向

挨拶と問題提起の趣旨 K 薬科大学 20 周年 D 大学でのシンポ M 大学生
協 50 周年 日本の大学生協の規模と内容 主権者の事業としての大学生協

VI 大学生協から民主協同社会へ

1 日本の大学生協について理解してほしい基本的なこと

「灯台もと暗し」だったのか？ 世界にも例がない大学生協 協同組合型大学
生活支援は日本の誇り 協同組合の 10 年と大学生協 大学生協の内部でも意義
論議は困難 大学生協および生協が直面している問題 目標としての協同社会
主権者のための政府と主権者による事業 学生、教員、生協職員がいっしょになっ
て実践的な議論を！ ビジョンとアクションプランに戻って 協同・協力・自
立・参加に向けて

2 大学生協について議論を始められないか？

大学生協は緩やかに衰退しつつあるのではないかな？ 生協についての議論はでき
ないかな？ 教員の役割 何を議論するのだ？

3 大学生協をつうじて主権者に！

学生委員との懇談 会長になって見えてきたことをどう伝えるか？ 何をし

ているか？ どういう方式でしているか？ 国内国際交流でもこのことが大きな問題になってきている 大学生活の基礎支えを協同組合方式でやる

4 大学教育改革と大学生協の役割：饗宴（シンポジオン）の復活への貢献

歴史の趨勢は民主化 民主化の担い手は主権者 民主的事業と民主的政府
大学生協は民主的事業の先駆者 アカデメイアからシンポジオンへ シンポジオンと大学生協 教員の役割の重要性

5 民主協同社会への復興を！

故郷としての福島 故郷としての沖縄・広島・長崎 エネルギー政策への責任 主権者としての政治への責任 世界経済を混乱させない責任 主権者の事業としての協同組合 主権者の事業としての大学生協 日本は生協で大学を支える国の先駆者 これからの社会は民主協同社会 大学生協は健闘している！ 大学の源泉としてのアカデメイアとシンポジオン ムークスとシンポジオンのために生協を使う これからの大学のための若き主権者の事業 大学生協の活動で福島から民主協同社会を！

6 大学教育にもっと生協利用を！：そのための教員の役割

国際的な学会と交流 饗宴（シンポジオン）と学士院（アカデメイア） 大学生協は事業ベースで振りまわされているか？ 規模と参加は矛盾するか？
教員は大学生協論を積極的に展開すべき！

7 「2050年の生協」についての意見

生協のこれからを考えるためのマクロ社会変動予測 ミクロ・ビジョンをマクロ社会変動のなかに

8 大学生協から民主協同社会へ

葬儀委員長の役割！？ 粘り強さを発揮する生協 目をみはる先進例も
アジアのなかの大学生協 欧米と競う大学生協 民主化の趨勢と主権者
若き主権者の事業 民主協同社会へ

コラム「きらめくキャンパスライフ」

- ①もっとも基本的な消費者教育とは？
- ②リスクに対処し、学生生活を全うする
- ③食を基礎にしたコミュニケーションとしての大学
- ④人類史の一部としてのキャリア
- ⑤世界市民社会のリーダー候補としての学生に支援を！

- ⑥大学生協の新しい大きな役割
- ⑦生徒から学生、そして市民に
- ⑧環境問題など存在しない！？
- ⑨国際視野からみた市民の育成
- ⑩店舗や食堂の背後にある世界的意義
- ⑪日本社会の復興を協同組合の活性化で
- ⑫「歴史の狡知」としての日本の大学生協
- ⑬大学生活への不安と大学生協
- ⑭協同組合運動の知的媒介者としての大学生協
- ⑮アジア太平洋協同組合のこれからと大学生協
- ⑯勉強第一を協同に結びつける
- ⑰消費をつうじて社会生活の生産へ
- ⑱素直な元気を高度な知へ
- ⑲学生たちの協同のエネルギーを大学改革に生かそう！
- ⑳大学生協をつうじて協同社会づくりを！
- ㉑大学院でも研究と折り合いを付けて生協活動をしよう！
- ㉒自然に本を読みたくなる自分をつくろう！
- ㉓日本の大学生協の世界史的意義

《参考資料》

- 1 21世紀を生きる大学生協のビジョンとアクションプラン：協同・協力・自立・参加の大学生協をめざして 2006年12月 全国大学生生活協同組合連合会全国総会
- 2 2020年に向けた大学生協のアクションプラン：協同・協力・自立・参加の大学生協をめざして 2013年12月 全国大学生生活協同組合連合会全国総会
- 3 協同組合憲章 草案 2012年1月13日 国際協同組合年実行委員会
- 4 協同組合のアイデンティティに関する声明 1995年 国際協同組合同盟

初出一覧

事項索引

人名索引